



こすもスマイル

49号

発行／小林市立病院 地域医療連携室 令和3年4月発行

～病院長のあいさつ～



新年度を迎えるにあたりごあいさつ申し上げます。

昨年からの新型コロナウイルス感染症による影響のなかで当院の地域医療に対する皆様のご理解、ご協力に感謝いたします。

当医療圏では医師会、医療機関、保健所、住民の皆様方のご協力のおかげで、通常の医療業務には大きな支障が生じていない状況です。しかしコロナ禍の生活の中では、コロナ患者、家族、医療機関、医療従事者への誹謗中傷などが少なからず報道されていることには寂しさを感じました。一方で面会禁止を強いられている入院患者、さまざまな負担がかかっている医療従事者への励ましのメッセージもあり、小林でも地域医療を考える会、小林ジュニアアスリートクラブの生徒さんやその保護者の皆様より勇気づけられるメッセージカードをクリスマスにいただきました。心から感謝いたします。コロナ禍の中、皆様方の心遣いに医療人としての自身の姿勢を省みる機会となりました。

当院は、急性期医療、手術、救急などを中心とした医療体制をさらに充実し、高次医療機関との連携をとり高度な医療を提供しなければなりません。職員個々がその能力の向上につとめ、研修医、医学生、看護師ほか医療スタッフの実習生を積極的に受け入れ、指導、教育することが、地域医療の充実につながるとも考えています。さらには周囲の医療機関、介護施設などと円滑に連携し、地域住民の医療体制へのご理解が包括的な医療には重要であると考えています。

本年度も安全で適確な医療を提供できるよう努力いたします。引き続きご理解、ご協力よろしくお願いいたします。

小林市立病院 病院長 徳田 浩喜

理 念

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯(しんし)な姿勢で日々研鑽(けんさん)に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



診療部紹介 4階西病棟

当院回復期リハビリテーション病棟は、主に大腿骨骨折、腰椎圧迫骨折等の整形外科疾患をはじめ、脳卒中後遺症等の患者さんが集中的にリハビリテーションを行い、ADL(日常生活動作)の再獲得を目指し、ご自宅や施設への退院を支援する目的で平成25年6月に開設されました。リハビリテーションによる身体機能の回復だけではなく、衣服の着脱や食事、整容、排泄、入浴など退院後の日常生活を見据えて自立を促すサポートを行っています。

患者さんやご家族が心身ともに安心して退院を迎えることができるよう、医師をはじめ看護師、リハビリスタッフ、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーによる医療スタッフと共に、ケアマネージャーや福祉事業者、関連施設スタッフも連携し情報交換・共有することで、包括的に個別性のある退院支援を行うことが特徴です。



このように当病棟は、患者さんを生活期(維持期)へ送り出す重要な役割を担っています。多職種で専門性を活かしカンファレンスを実施することで、退院までの最適なプランを構築しています。限られた入院期間の中で質の高い退院支援を志向し、患者さん、ご家族と共に急性期→回復期→生活期へとシームレスな医療が提供できるよう、スタッフ一同尽力してまいります。



4階西病棟 看護師 村脇 計哉



栄養情報だより



臨床栄養室

みなさん毎日野菜を食べていますか？厚生労働省の健康日本 21 より野菜は1日 350g 以上の摂取が推奨されています。

どのように工夫すればいいのか一緒に考えていきましょう。



まずは、野菜を積極的に摂取することの利点についてです。

野菜には、ビタミン類、カリウム、食物繊維が含まれているものが多く存在します。



ビタミン類・・・

ビタミン類は、栄養素を体に吸収する際に重要な働きをします。ビタミン類が不足してしまうと、うまく栄養素を体に吸収することができず、体の不調に繋がる原因にもなります。

カリウム・・・

カリウムは、体内のナトリウムを体外に排出してくれる作用があります。他にも果物に多く含まれています。

食物繊維・・・

便の量を増やし出しやすくしてくれたり、コレステロールを体外に排泄してくれる役割があります。

野菜を摂取することで、これらを同時に取り入れることができるのです！野菜を摂取することは、**高血圧症**や**高コレステロール血症**などの生活習慣病の予防にも繋がります。



では、野菜 350g をどのように取り入れていきましょう？

両手 1 杯分で約 **70g** になります。目の前にある野菜料理は両手何杯分になるか考え、**両手 5 杯分**の野菜摂取を目指しましょう！



宮崎県民の野菜不足量は約 **100g** とされています。

- 普段の食事には野菜サラダや小鉢を 1 品プラスしよう。
- 定食を食べるときには、小鉢や野菜サラダがついているものを選ぼう。
- カット野菜や冷凍野菜もうまく活用しよう。



生活習慣病（高血圧症、糖尿病、腎臓病等）の増加が、問題視されています。要因は様々ですが、まずは、野菜を積極的に摂取し、生活習慣病予防を意識しましょう。

コメディカル紹介地域医療連携室

今回は、医師事務作業補助者の紹介をします。



医師事務作業補助者とは、医師が行う業務のうち事務的な業務をサポートする職種です。その呼称は病院によって様々で、医療秘書や医療クラーク、メディカルアシスタントとも呼ばれています。



現在、当院の医師事務作業補助者は7名で業務を行っておりますが、私が入職した当初は4名での体制で業務を行っていました。人員増加に伴い、業務内容も大きく変わりました。

業務内容としては、基本的には診断書や診療情報提供書（紹介状）など医療文書の作成代行や、電子カルテなどの診療記録への代行入力があり、医師の外来診察時などに同席して行いま

す。その他の業務内容としては、医療の質の向上に資する事務作業としてがん登録、検査説明、手術の症例登録（NCD）など、手広く行います。また、行政への対応として、厚生労働省などに報告する診療データの整理などを行っています。

私たちは、医師が行う業務を医師の指示のもと代行しています。今後もその自覚を持ち、日々の業務をしっかりと行っていきます。

医師事務作業補助者 橋本 美彩子

連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225（直通）

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp



スタッフのひとこと

春風の心地よい季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルスへの感染予防のために外出も控える日々が続いていることかと思えます。

娘が大好きなイチゴ狩りも今年は断念しました・・・。

自宅で過ごす日々が多くなり、ストレスも溜まると思いますが、

早くこの状況が収束することを願うばかりです。



医師事務作業補助者 市来 瑠惟